

論文審査結果の要旨

報告番号	甲 第 3260 号	氏名	藤後 秀輔
論文審査担当者	主査 三村 洋美 副査 上條 由美 副査 大崎千恵子		
<p>論文題名：ビデオ映像を活用した来院時心肺停止患者に対する看護師の行動分析 —初療教育の在り方の検討—</p> <p>掲載雑誌名：昭和学会雑誌（2020-12-15Accept）</p> <p>救命救急センターの看護師の業務内容を分析し、初療経験 3 年以上の「ベテラン」と 3 年未満の「ビギナー」の行動を比較することにより、初療教育のあり方を明らかにすることを目的とした研究であり、目的を明確に進められている研究である。</p> <p>研究データは、A 大学病院の救命救急センターで来院時心肺停止症例を担当し、研究の同意が得られた看護師「ベテラン」4 名、「ビギナー」4 名の監視カメラに映った映像をデータとしている。分析する来院時心肺停止症例は「ベテラン」が 8 例、「ビギナー」が 9 例であり、患者入室から 30 分間の看護師の滞在場所と業務を分析対象としている。適切な手順でデータの抽出および統計学的分析が行われている。分析は、まずは全員の看護師の滞在場所と業務が示され、その後に「ベテラン」と「ビギナー」で滞在場所と業務を比較分析している。</p> <p>結果は、全体では滞在場所は「ベッド周辺 41.7%」「電子カルテ 40.3%」の順に長く、業務内容は「診療補助・患者対応業務 44.9%」「看護記録業務 39.6%」「家族に対する心のケアおよび準備 8.5%」の順であった。比較分析では「ベテラン」は「ビギナー」より「家族に対する心のケアおよび準備」の行動が有意に多く、「ビギナー」は「ベテラン」より「看護記録業務」が有意に多いということが明確にしめされた。救命救急看護分野の看護師の実践能力を明確にした大変有用な結果を導いている。今後は初療教育として「ビギナー」レベルの初心者の看護師にはリフレクションを行いながら、「ベテラン」のように次を予測した行動を育成することが提案されている。研究目的と結果および考察が一貫した論旨で展開されている点は、大変、論理的な論文である。</p> <p>新規性、創造性は高く、プレゼンテーションにおいても一貫性のある論理展開での説明がなされた。論文の質は高く、保健医療学のみならず、医学系の研究者が結果について理解し活用できる内容であり、本論文の社会への功績は大きい。</p> <p>上記より、本論文は本学大学院学位論文（博士）審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			